

WBCSD Tokyo Connect 2025

2025年10月14日

プログラム概要



World Business
Council
for Sustainable
Development

協力:



26 August, 2025

アジェンダ概要

	2025年10月14日
13:00 – 13.15	開会の挨拶 & 基調講演 Peter Bakker, President & CEO, WBCSD★
13:15 – 14:15	PACTによるスコープ3脱炭素化の推進： 日本および世界におけるバリューチェーンの透明性構築 (SAPとの共催)★
14:15 – 14:30	コーヒースタイル
14:30 – 15:30	削減貢献量と気候イノベーションの拡大
15:30 – 15:45	コーヒースタイル
15:45 – 17:15	ビジネスのための グローバル・サーキュラリティ・プロトコル (GCP)
17:15 – 18:15	人を重視した移行計画
18:15 以降	ネットワーキング



経営幹部向け説明会



パートナー共催イベント



WBCSD主催イベント



休憩

イベント詳細

- 日付: 2025年10月14日(火)
- 時間: 13:00~19:00(日本標準時)
- 場所: 東京 九段会館テラス(東京都千代田区九段南1-6-5 〒102-0074)
- 会場: 鳳凰 (2F)
- ウェブサイト: [バンケットホール 鳳凰](#)
- イベントは英語で開催されますが、日本語への同時通訳がございます

今すぐ登録する

詳細情報: *Kanako Hiramatsu*
kanako.hiramatsu@wbcsd.org



経営幹部向け説明会

PACTによるスコープ3脱炭素化の推進: 日本および世界におけるバリューチェーンの透明性構築

SAPとの共催

13:15 – 14:15

本セッションでは、SAPとの共催のもと、企業が「カーボン透明性パートナーシップ(PACT)」を通じて、スコープ3の脱炭素化をいかに加速できるかを探ります。PACTは、企業が正確な製品レベルのカーボンデータを算出・交換できるようにするグローバルな取り組みであり、バリューチェーン全体における透明性と協働のための信頼できる基盤を構築します。

本セッションの目的:

- 高品質な製品レベルのスコープ3排出量データがもたらすビジネス価値を強調する
- サプライチェーンの透明性を実現する実践的なツールとして、PACTスタンダード、方法論、技術仕様を紹介す
- 世界的な広がりと実際のインパクトを紹介し、特にアジア太平洋地域での導入事例に焦点を当てる
- 日本企業およびパートナーにPACTへの参加を促し、スコープ3脱炭素化のリーダーシップを発揮するよう働きかける
- 日本の企業エコシステム内でのPACT導入および連携の機会を創出する

PACTの詳細情報は[こちら](#)をご覧ください。



Speakers

- **Naama Avni-Kadosh**, ディレクター、カーボン透明性パートナーシップ(PACT)担当, WBCSD
- **Susanna Hasenoehrl**, 日本地域 サステナビリティ責任者、SAP
- ゲストスピーカーは近日中に発表予定です

Speakers

- **Marvin Henry**, ディレクター、気候アクション担当、WBCSD
- ゲストスピーカーは近日中に発表予定です

削減貢献量と気候イノベーションの拡大

14:30 – 15:30

改訂版「回避排出量ガイダンス v2」は、回避排出量(AE)の評価と主張に関する世界有数の手法の一つです。本セッションでは、回避排出量を競争優位性、グリーンファイナンス、価値創出にどのように活用できるか、また国際標準化の進展状況について議論します。本ガイダンスは、企業が自社の温室効果ガス(GHG)排出インベントリの範囲を超えて気候変動対策に貢献する方法を提示し、事業活動を通じて実現される排出削減量を定量化し、発信することを可能にします。

本セッションの目的:

- 回避排出量ガイダンスの主なアップデート内容を共有する
- 日本およびアジア太平洋地域の会員企業におけるガイダンスの活用を促進する
- 回避排出量を脱炭素化と価値創出の重要な推進力として捉える信頼感を強化する

「回避排出量ガイダンス v2.0」の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ビジネスのためのグローバル・サーキュラリティ・プロトコル(GCP)

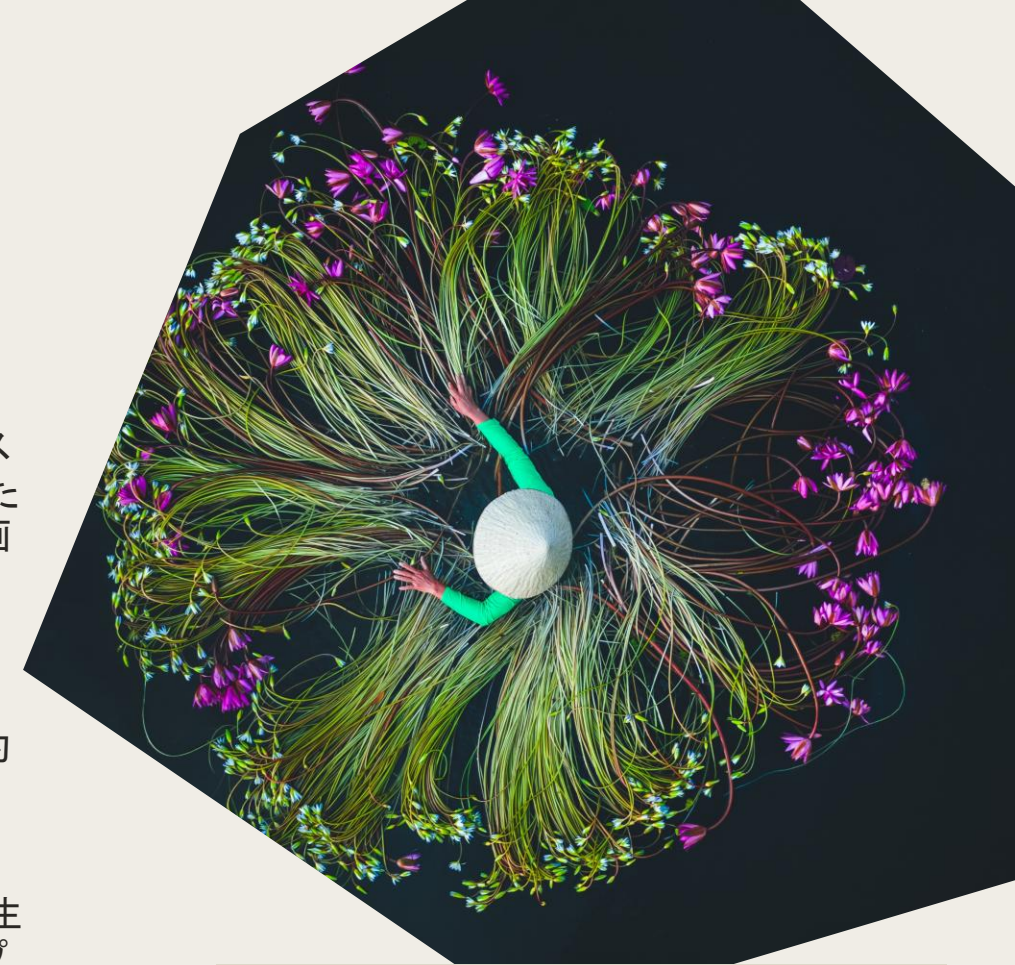
14:45 – 17:15

「ビジネスのためのグローバル・サーキュラリティ・プロトコル(GCP)」は、循環型ビジネスモデルおよび再生型経済への世界的な移行を加速するうえで、極めて重要な役割を果たします。SDGs目標17を基盤とするこのビジネス主導の取り組みは、民間セクターの参画が、人と地球の双方に利益をもたらす持続可能でレジリエントかつ循環的なソリューションを実現できることを示しています。

本セッションでは、循環型経済の未来を形作る主要なステークホルダーが一堂に会し、COP30での正式発表に先立ち、GCPの特別プレビューを提供します。また、その技術的開発に貢献した関係者と直接交流する貴重な機会も提供されます。

本パネルは、**世界持続可能発展ビジネス協議会(WBCSD)**が、**国連環境計画(UNEP)および環境省(MOEJ)**と連携して共催します。議論では、持続可能な消費と生産(SCP)に焦点を当て、SDGsの達成を推進する革新的かつ包摂的なパートナーシップとソリューションを紹介します。

WBCSDは、**One Planet Network(UNEP主催)**と戦略的パートナーシップを結び、このGCPを主導しています。GCPは、50社以上の企業、市民社会、学術機関、国際金融機関、政府、標準化団体など、80以上の組織から集まった100名以上の専門家とともに、グローバル・ノースおよびグローバル・サウスを跨いだ国際的マルチステークホルダー・プロセスを通じて共同開発された先駆的な取り組みです



Speakers

- **Quentin Drewell**, シニアディレクター、循環型製品・素材担当、WBCSD
- ゲストスピーカーは近日中に発表予定です

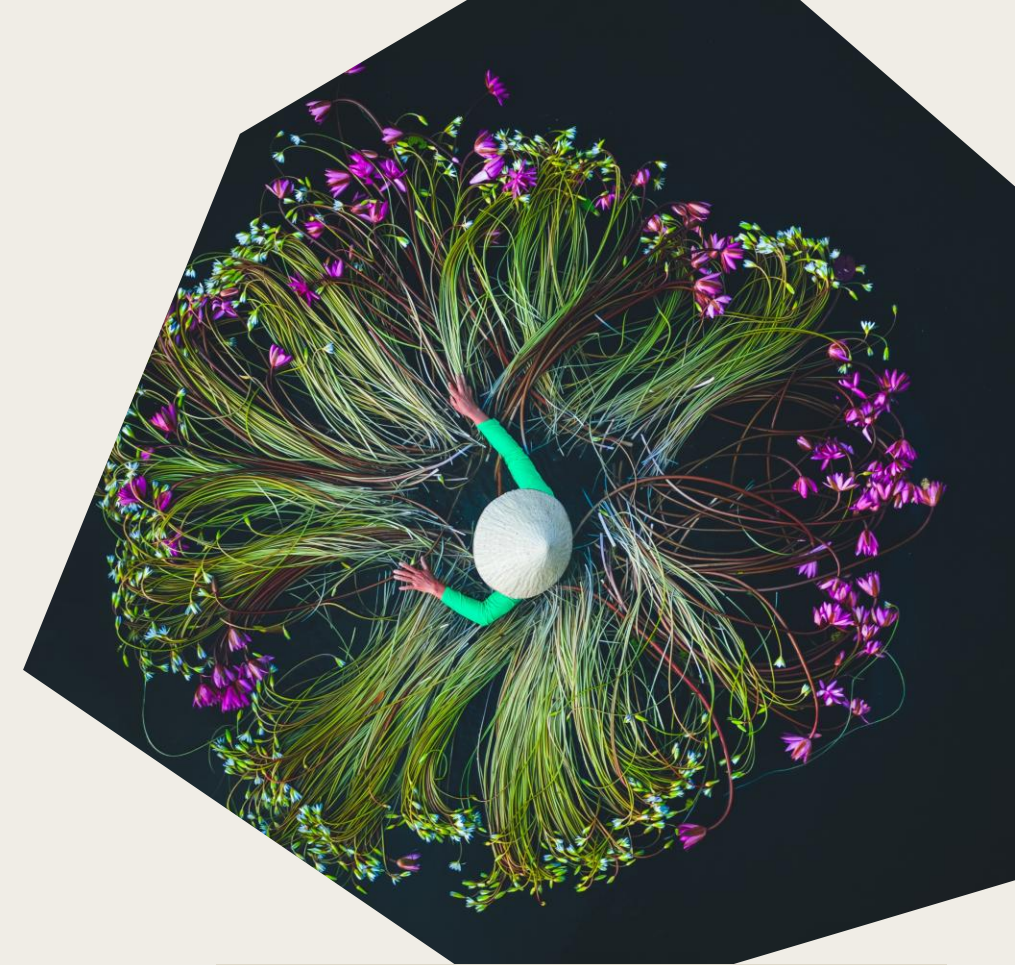
ビジネスのためのグローバル・サーキュラリティ・プロトコル(GCP)

14:45 – 17:15

バリューチェーン全体で循環性へのシステム転換を加速することを目的に設計されたGCPは、2050年までに最大760億トンのCO₂換算排出量削減と1,200億トンの資源削減を実現できる可能性があります。これは、現在の世界年間排出量と資源消費量の約1.5倍に相当します。さらに、導入により4.5兆米ドルの経済成長を促進し、600万の雇用を創出し、2026年から2050年の間に平均的な大気汚染(PM2.5)を11～12%削減できるとされています([GCPインパクト分析レポート](#)より)。

GCPは、企業に循環性の標準的な企業パフォーマンス評価システムを提供し、報告・開示、目標設定、保証、コミュニケーションにおいて調和のとれた循環性の方法論と会計指標を確立します。また、政策立案者には、先進企業の循環型移行の拡大と加速を妨げる障害を克服するための実践的な政策手段を提供します。

GCPの詳細情報は[こちら](#)をご覧ください。



Speakers

- Quentin Drewell, シニアディレクター、循環型製品・素材担当、WBCSD
- ゲストスピーカーは近日中に発表予定です

Speakers

- Alyson Greenhalgh-Ball、シニアアドバイザー、
エクイティ・アクション担当、WBCSD
- ゲストスピーカーは近日中に発表予定です

移行計画における「人」の組み込み

17:15 – 18:15

ネットゼロへの移行において、「人」は重要な鍵となります。本セッションでは、日本および世界で事業を展開する企業が、労働力のレジリエンス、公平性、地域社会への影響を移行計画に統合し、長期的な競争力とビジネス価値を確保するための人中心のアプローチについて探ります。

気候変動の緩和と適応に加え、信頼性の高い移行計画は、業種の実情や地域の状況に合わせて、労働力の変革、サプライチェーンのレジリエンス、地域社会への影響を組み込みます。

本セッションは、部門横断的に移行戦略の実行に責任を持ち、日本および国際的に社会的側面を組み込むための指針を求める経営幹部を対象としています。参加者とともに、真に人を中心に据えたアプローチとは何かを探り、戦略を強化するための実践的な知見を提供します。

本セッションの目的:

- 効果的な移行計画において「人」の考慮がなぜ重要なのかへの理解を深める
- 移行計画に「人」の要素を組み込むための指針を提供する
- 信頼性を高め、長期的なビジネス価値を生み出すための知見を参加者に提供する

エクイティ・アクションの活動の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

ご協賛いただいたスポンサーに深く感謝申し上げます



エンタープライズアプリケーションとビジネスAIのグローバルリーダーであるSAPは、ビジネスとテクノロジーの融合をリードしています。50年以上にわたり、SAPは財務、調達、人事、サプライチェーン、CX、サステナビリティといった重要な業務領域を統合し、組織が最大の成果を発揮できるよう信頼を得てきました。

SAPは、お客様が信頼するクラウドERPのデータを活用し、ビジネスプロセスを変革することで、よりコンプライアンスに適合し、持続可能でレジリエントな企業を構築できると考えています。

SAPのAIを活用したサステナビリティソリューションにより、組織全体に広がる成果を創出できます。特に、①サステナビリティ管理、②カーボン会計、③持続可能なサプライチェーン、④オペレーショナル・コンプライアンスの4つの領域に注力し、組織のサステナビリティ目標達成を支援しています。詳細は[こちらから](#)、またお客様事例は[こちらから](#)ご覧いただけます。

さらに、SAPが国連の持続可能な開発目標(SDGs)をどのように支援しているかについてもご紹介しています。ぜひ[資料\(英語\)](#)をダウンロードしてください。

お問い合わせは、担当: 吉元(nobuhiro.yoshimoto@sap.com)、または竹川(naoki.takekawa@sap.com) までご連絡ください。

Thank *You*

ご不明な点や詳細につきましては、
[\[kanako.hiramatsu@wbcsd.org\]](mailto:kanako.hiramatsu@wbcsd.org) までご連絡ください



Geneva | Amsterdam | Chicago | London | New York City | Singapore | Wuhan City